

令和2年度 認知症施策の取り組み状況

	No.	事業名等	実施日	内容	開催回数・参加人数
理解促進・普及啓発	1	認知症サポーター養成講座	随時	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを多世代にわたり養成した。	23回 延1,027人 (内訳) 一般133人(7回) 中学生382人(3校) 小学生388人(8校) 幼児124人(5園)
	2	ステップアップ講座	令和2年12月8日、11日	認知症サポーター養成講座修了者に、認知症に関する理解を更に深めるための講義、地域で支援活動をするための体験やグループワークを実施した。併せてボランティア登録の説明を行った。	2日間×1回 延24人 ボランティア登録9人
	3	認知症サポーター意見交換会	令和2年7月30日 10月22日 令和3年1月28日	ステップアップ講座を修了した登録サポーターの活動状況の報告や意見交換、今後の会としての方針について話し合った。	3回 延39人
	4	キャラバン・メイト意見交換会	勉強会 令和2年9月23日、10月2日 意見交換会 令和3年2月12日	令和元年度に養成したキャラバン・メイトを対象に、講義やグループワークを行い、活動に向けた支援を行った。また、意見交換会を実施し、キャラバン活動について意見交換をした結果、メイト同士の交流や情報交換等を目的とした、キャラバン・メイトの会設立の声が挙がり、設立に向けた検討が始まった。	勉強会 2日間×1回 延37人 意見交換会 1回 13人
	5	図書館との連携事業	令和2年9月19日	小学生の親子を対象に、敬老の日特別おはなし会(会場は図書館)として、高齢者や認知症に関する絵本の読み聞かせを行った。認知症の書籍紹介、パネル展示を併せて行った。また、小学校で読み聞かせをするボランティア団体の代表者へ、読み聞かせに認知症に関する図書の活用を依頼した。	1回 15人
相談	1	認知症個別相談会	各地域包括支援センター×月1回	認知症に関する市民からの相談に対応するため、地域包括支援センターで個別相談会を実施した。	48回 2人
	2	地域包括支援センター、病院等の周知		地域包括支援センター、認知症サポート医、かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者の名簿、認知症疾患医療センターをホームページ上に公開し相談先を周知した。	
認知症初期集中支援推進事業	1	認知症初期集中支援事業	初期集中支援チーム検討委員会 令和3年3月26日	初期集中支援チームの適用事例はなかった。また、検討委員会を開催し、早期発見・早期対応に向けた支援体制の構築について検討した。	検討委員会1回
	2	認知症地域支援・ケア向上事業	毎月第3月曜日	地域包括支援センターに配置する認知症地域支援推進員と、地域の支援体制の構築や、認知症ケア向上の取組みを推進するために検討した。	10回
	3	認知症ケアパス	随時	個別相談、認知症サポーター養成講座などで配布し、周知を図った。	随時
介護者の負担軽減	1	オレンジカフェ	オレンジカフェはにぼん 毎月第4月曜日 オレンジカフェ本庄東 毎月最終木曜日 オレンジカフェにっ 偶数月第3水曜日 オレンジカフェ本庄南 毎月第2水曜日 オレンジカフェMEGAドンキ 毎月第2月曜日 オレンジカフェほっとこだま 毎月第1水曜日	認知症の人やその家族、地域住民や専門職が集う、認知症カフェを市内6会場で開催した。	33回 延372人
	2	認知症家族の会本庄	毎月第4木曜日	認知症の人を介護する家族が集い、日頃の思いを語ったり、介護のヒントを得る場としての家族の会の開催を支援した。	8回 延42人
<p>取り組みの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を講じて認知症サポーター養成講座を継続し、1,027人養成することができました。認知症サポーター養成講座受講後に、サポーターとして登録した方はこれまでに45人となっています。その登録認知症サポーターを対象に実施している意見交換会の中から、有志が集まり、令和3年度からのオレンジカフェ設立に向けて検討が始まりました。また、キャラバン・メイトであり介護サービス事業所の職員が個人として始めたオレンジカフェや、キャラバン・メイト同士の交流や情報交換を目的とした本庄市キャラバン・メイトの会設立について検討が始まるなど、地域の中で主体的な動きが見られています。 ・認知症サポーターの活躍の場を積極的に検討していることが良い点であり、その一方で本人視点が弱い、早期発見・早期対応や認知症簡易チェックシステムの利用とその後の相談支援の部分が課題との指摘もあります。そのため、令和3年度は認知症の方本人の意見をどのよう把握するか、また早期発見・早期対応のための支援体制構築について、初期集中支援チームと連携を図りながら検討します。事業を実施しながら評価分析し、検証をする必要があります。 					